

# 図書館たより

号数 第56号  
発行日 昭和57年6月15日  
編集行 島根県立図書館  
編集発 松江市内中原町52  
TEL (0852) 22-5725  
印 刷 渡部印刷株式会社



設置場所 温泉津町コミュニティセンター  
担当者 黒 直美  
貸出期間 14日間  
蔵書冊数 2,000冊  
図書購入費 20万円(ほかに寄付金30万円)

## 特 色

温泉津町には、地区の公民館は7館ありますが、いずれも小規模で、町民の要望に必ずしも応じられるほどのものではありません。従って、6千町民は長い間、中央公民館の建設を待ち望んでいました。そんなところへ、昨年11月、中央公民館の性格を持つ、温泉津町コミュニティセンターが完成し、念願の図書室(70m<sup>2</sup>)も設けられたのです。

早速、昭和56年度に230万円で、1,307冊の図書を購入し、既存分とで2,000冊となりました。4月13日には、県立図書館からの借受図書が3,000冊届き、合計5,000冊で図書センターを開設することになりました。目下、受入図書の整理に大わらわで、5月10日開館をめざして、4月より配置された、専任の臨時職員を中心にがんばっています。

4月になるとすぐに、蔵書の増加をはかるため、図書寄贈運動を開始し、無線放送で呼びかけを行ったところ、早速反響があり、関係者を喜ばせています。

図書室のあるコミュニティセンターは、町中央の温泉津地区にありますが、本町は、地域的に広範囲で、しかも交通の便の悪い山間部もありますので、読書普及は、図書室利用者を待つより、配本活動、自動車巡回活動を中心にならなければならないと考えています。それには、地区公民館と協力して、きめ細かな活動を展開し、1人でも多くの人に本と親しんでもらうよう計画中です。

また、親子読書活動も、今まで家庭教育学級の中で取り上げてきましたが、単発の学習だったため、活動が、根を下ろすに至っていません。今年から、年度毎にモデル保育所を指定して、重点的に学習をすすめ、継続した親子読書が行われるよう取り組みたいと思っています。

広報活動は、このような計画を推進していくうえで、大変重要になりますが、町広報紙、教育委員会発行の社会教育だより、それに無線放送を有効に利用して、周知徹底を計って行くつもりです。

以上のような計画で、昭和61年度までの5年間は図書センターとして、県立図書館の援助を仰ぎながら自立の準備をすすめ、6年目の昭和62年度には、蔵書6千冊で町立図書館として、独立した活動を進めて行きたいと考えています。

## 新図書センターの横顔・温泉津町



# 郷土資料室

ご利用ください ④

県立図書館郷土資料室をご存じですか。二階資料室の一番奥まった部分にあります。たいていの公立図書館には、郷土室とか郷土資料コーナーが設置され、地域の資料が集められています。郷土資料は、私たちが住んでいる地域社会を知るための必要不可欠な資料ですから、その重要性は早くから指摘され、図書館でも一般図書資料とは区別して取扱われています。県立図書館でも郷土資料の収集に積極的に取りこんでいます。

郷土資料の内容規定は、図書館の設置主体や地域性によって、多少異ります。県立図書館では次のように規定しています。

- (1)島根県に関するもの
- (2)歴史的、経済的、文化的に島根県と深いかかわりのある地域に関するもの
- (3)郷土人文庫資料、ヘルン文庫資料

以上の内容をもつ郷土資料を、資料の形体によって区別してみると、印刷資料と手書き資料に分けることができます。一般に図書館における郷土資料は、だいたい印刷資料が主ですが、文書館や資料館のない場合は、手書き資料も積極的に収集する必要があります。

印刷資料は図書が主体ですが、自治体の作成するパンフレットや学校新聞のような一枚物、新聞切り抜き（クリッピング）絵葉書、写真など形体的には多種にわたります。県立図書館には、これら印刷資料約1万6千冊を整備しています。そのうちの約1万冊は郷土資料室に開架（公開書架に並べること）していますので、自由に閲覧できます。しかし、郷土資料は貴重な資料が多く、亡失したり損亡すると二度と補充できないものなので、一部を除いて貸出いません。特に貴重な資料については、ガラス戸棚の中に別置していますので、閲覧を希望されるときは係員に申出て下さい。ただし、比較的新しく刊行され、補充も可能な資料につきましては、郷土資料貸出コーナーに開架して、貸出しの便宜を計っています。

島根県に関する一般的な事項は、印刷資料でだいたいまにあります。しかし、特殊なテーマについて、詳しく調査研究する場合は、手書き資料の閲覧が必要となります。

手書き資料とは、古文書、近代行政文書、写本、稿本などのことです。県立図書館には、旧島根県史偏さん時に作成した県内の古文書影写本、古地図、明治20年ごろまでの島根県行政文書、地方文書など冊子体5千冊、一枚物文書4千点を所蔵しています。もちろん目録もできています。係員に申出いただければ、閲覧できます。

ところで、郷土資料は一般資料とちがって、出版情報が少なく、入手のむずかしいものもありますので、出版されたすべての郷土資料を収集することは困難ですが、郷土資料モニターのご協力等によって可能な限り収集しています。

郷土人文庫資料は島根県出身者で、県内外で活躍した人物の著述、翻訳等です。ヘルン文庫資料も広い意味では郷土人文庫ですが、ヘルン文庫の場合は彼の著述のみならず、彼に関するあらゆる文献を収集しています。

この他、マイクロフィルムを所蔵しています。フィルムには、明治15年から昭和41年までの地元紙、明治6年から昭和20年までの島根県統計書、鰐淵寺文書、雲州松平家文書等が収録されており、備えつけのリーダープリンター機で読み、さらに必要な部分をコピーすることができます。新聞のマイクロフィルム利用は、最近非常に多くなってきました。

行政刊行物も最新情報として重要な資料ですので、県立図書館では各方面に依頼して、銳意収集に努めています。

以上、郷土資料室の概略をご案内いたしましたが、郷土島根県について知りたいことがありましたら、是非ご利用下さい。直接利用できないときは、電話、手紙等によっておたずねになっても結構です。誠意をもって調査のお手伝いをいたします。

# こどもの本

10

## くまさぶろう

もりひさし / ユノセイイチさく

こぐま社 ￥1,200

世界中にひとりきりしかいないくらいのすばらしこどぼうの名人くまさぶろう。初めは砂場のシャベルや、女の子のコロッケや、雨の日の傘を取ったり……。動物園の象を小さくして家に持って帰ったりして喜ぶ。しかし、何年かたつと人の心をぬすむ見事なうでまえになる。そして、泣きたい子どもの心を感じとてぬすんで歩く旅をつづける。

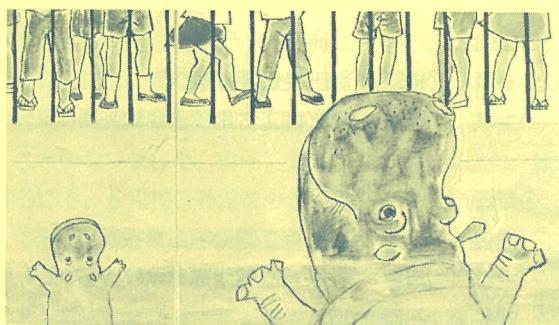
淡彩の絵や、ひょうひょうとしたペンの線は、くまさぶろうの動きや表情を細やかに表わし、この絵本獨得の雰囲気をつくり出し、ユニークな発想とともに子どもの興味をそそる。

## かばくん

岸田衿子さく 中谷千代子え

福音館書店 ￥480

動物園に朝がきて、ねぼすけなかばの親子のところに、かめを連れた男の子が餌を運んでくる。かばが、やっと目をさましてキャベツを食べるころ、動物園には子どもたちがたくさんやってきて、かばと交流する。写生的な淡彩の絵とリズムのある文は見事に融合され、人間から見たかば、かばから見た子どもの相互のやりとりの楽しさが読者を喜ばせる。かめ、かば、子どもの会話の部分の絵を見ながら、かばになったり、そのかばを見ている子どもになって読むと楽しさが一層伝わる。何回読んでもあきない魅力をもつ絵本である。



## わたしのワンピース

え・ぶん=にしまきかやこ

こぐま社 ￥750

空からまいおりてきた布で、うさぎの女の子は、真白いワンピースをつくる。散歩がラララン、ロロロンと楽しくなる。花畠に行くと花模様に、雨が降ると水玉模様に、草原では草の実模様に、それを小鳥が食べにくると小鳥の模様に変る。おやおや、小鳥と一緒に空を飛ぶと虹の模様に……。

子どもたちの想像力を刺激するストーリー、口ずさみたくなるリズミカルなことば、「わたしも描けそうだな」と思えるシンプルな絵は、子どもの心をとらえてはなさない。

## 三びきのやぎのがらがらどん

マーシャ・ブラウン え

せたていじ やく

福音館書店 ￥550

三匹のやぎのがらがらどんが山へ草を食べに出かける。が、途中で恐ろしいトロルのいる橋を渡らなければならない。小さいやぎと中くらいのやぎは、あとから大きいやぎがくるからと言って難を逃れる。最後に大きいやぎがきて、どうどうと対決してトロルを打ち負かしてしまう。きびしい自然を背景とした劇的なノルウエーの民話である。三匹三様の緊迫したトロルとのやりとりが、くり返しのある簡潔な語り口と、それぞれの個性を描き出した力強い線の絵で物語られており、子どもたちに充足感を与える。

## 11ぴきのねこ

馬場のぼる著

こぐま社 ￥750

おなかをすかした11ぴきのねこはひげの長いじいさんねこに教えられ山のむこうの湖へ大きな魚をつかまえに出かける。何度も失敗のち、力をあわせ油断して寝ている怪魚をようやくつかまえる。仲間に見せるまでは手をつけないと約束する。ところが闇の夜が明けてみると……。

ピンクとクリームと紺色を主にした淡い色調の単純明確な漫画調の絵と約束を破る最後の場面構成がおもしろい。同じシリーズに「11ぴきのねことあほうどり」などがある。

# NEWS

## 昭和57年度島根県公共図書館協議会総会開催

去る5月18・19日の両日 大田市三瓶町志学山荘において、50名の参加者が一同につどい開催された。主な会議内容は次のとおり。

### ●昭和57年度事業決定の中から

子どもの読書にたずさわる職員の研修会が新たに計画され、専門講師による密度の濃い研修が今秋開催されることとなった。

また、毎年3月松江市で開催されている職員研修会を今年度は石見地区で実施することとなった。

### ●図書館等読書施設職員の表彰式

今年度から新たに県公共図書館協議会に表彰規定が定められ、この規定に基づいて、今回次の3氏に対し第1回の表彰式が行なわれ、それぞれ表彰状と記念品が授与された。

元浜田市立図書館 沼田登行氏 15年勤続(退職)

元大田市立図書館 出構美代子氏18年勤続(退職)

市立出雲図書館 岡 登氏 29年勤続(現職)

### ●講演会開催

このたびの総会に、本県出身の国立国会図書館総務部長高橋徳太郎氏を招き「地域文化と図書館」と題し講演会を開催した。協議会参加者の外に大田市内学校図書館関係者等約60名が2時間にわたり熱心に聴講した。

### ●講演要旨

図書館は地域の文化・産業に密着した個性ある資料収集を行うことにより、地域の発展に貢献できる。そしてこのような図書館が、コンピューターを活用してネットワークを完成し、相互に協力しあって住民に奉仕できるようにしなければならない。

## 春季子どものつどい開催

5月9日(日)県立図書館集会室において実施。今回は小学校高学年を対象に、読書体験の発表、くにびき神話のお話、映画鑑賞といった内容で、約100名が参加した。くにびき神話には、風土記・古事記と関連づけた質問ができるなど充実した半日であった。

## 蔵書目録第11巻完成

今回の蔵書目録第11巻は、昭和51年から54年の4年間に当館に受入れた図書約2万冊を収録したもので、54年から3ヶ年で作業を行ったものです。50年以前受入れの図書については、既刊の第1巻から10巻までに収録されています。(1~8巻は創設期から46年受入分を収録、9巻は1~8巻本文の総書名索引、10巻は47~50年受入分を収録した追加目録)これら蔵書目録刊行の目的は、県立図書館が所蔵している図書を県内どこに住んでいる方にも、十分に利用していただきたためのものです。当館では遠隔地居住者および重度身障者のための郵送による図書の貸出制度や、公共図書館間における図書の相互貸借制度を積極的におし進めていますが、そのためには県立図書館にどのような図書があるかを、住民に十分に知っていたかねばなりません。したがってこれら蔵書目録は、できるだけ住民に近い場所に備え付けられている必要があり、現在のところ各公共図書館、市町村教育委員会、県立学校図書館等に配布しております。

したがって配布を受けた機関におかれでは、住民が容易に手にとって閲覧できるよう、図書館、公民館等の各閲覧室の開架書架に必ず置いていただくよう配慮願います。教育委員会事務室等で、ほこりをかぶっているということのないよう願います。

これまでの蔵書目録作成は全て手作業で行ってきましたが、今後は電算化により、より早く、より多角的な編集による目録が作成され、一層住民サービスに役立つよう早期実現に向けて準備研究中です。

### ◎出向

参事 林原 宏(企画部参事へ)

主事 石本 静雄(商工労働部通商観光課へ)

### ◎新任

次長 小西 伝造(商工労働部工業振興課から)

主事 坂根 富夫(県立瀬戸高等学校から)

嘱託 石原 久貴